

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート

(2021年6月)

・勉学・研究の進捗状況

今月は、引き続きデータ分析しており、投稿論文を執筆している。まず、データの分析について、今回はビジネス場面におけるタイ人と日本人の「です・ます」と「(で) ございます」の使用と機能について着目した。「です・ます」と「(で) ございます」は敬語5分類の中で「丁寧語」に分類されている。文化庁(2007)による丁寧語の機能に関して、「です・ます」は「相手に対して丁寧さを示す」ものであり、「(で) ございます」は「より丁寧度が高いことを示す」と説明されている。本研究において結果を分析すると、タイ人と日本人の両者は上司に対して基本的に「です・ます」を多用したことが共通しているが、「(で) ございます」の使用は日本人による使用の方が多かったことがわかった。特に「(で) ございます」の使用に着目して考察すると、疑問文における日本人の「ございますか」の使用に関しては、「ありますか」も十分に適切な表現だと考えられるところにおいて、「ございますか」を使用することによって、日本人は部下の立場としてより上司に対して丁寧さに配慮しつつ、上司との距離を保っていることを示していると考えられる。実際のコミュニケーションにおける「です・ます」と「(で) ございます」の機能については、文化庁(2007)などで説明されている機能と照らし合わせると、より複雑な機能を読み取れたため、この点について今後より詳しく検討するべきだと考えられる。

そして、論文執筆の以外に、早稲田大学が主催した『待遇コミュニケーション学会』のオンライン学会に参加し、学会では「待遇コミュニケーションにおける丁寧さと丁寧」と、「第二言語教育・学習の研究と社会記号論系言語人類学のコミュニケーション論の視点」についてセッションが行われた。どれも自分の研究に非常に関わっている観点のため、興味津々に参加し、討論することができた。

・生活について

Bunkamura ザ・ミュージアムで開催された『古代エジプト展』に行ってきた。この展示会では、オランダのライデン国立古代博物館のエジプトコレクションから、古代エジプトの棺を始め、人間と動物ミイラ、『死者の書』の一部などが展示されている。その中で最も興味深かったのは、CT スキャンしたミイラの研究成果の映像である。CT スキャンの手法によって、何度も包まれているミイラの各階層を見ることができ、ミイラの中の姿も明らかになった。

